

### 第3回 大山崎町地域公共交通会議 会議要旨

日 時：平成24年8月9日（木） 午前9時30分 ～ 午前11時05分

会 場：大山崎ふるさとセンター 3階 ホール

出席者：

（委員）江下 傳明 会長、有賀 正晃 副会長、平野 剛（代理出席：辻本 耕一郎）、庄 健介、西山 哲、筒井 基好、近藤 智彦、本多 幸雄、蔦谷 重直、木村 彰夫、小西 和子、大東 五郎、國枝 滋樹、松本 好雄、長谷川 央、山口 允己、川合 宏和、勝 正雄、中川 大、辻村 徳夫、村上 清、井上 義秀、小泉 満、北村 吉史、加賀野 伸一、安田 久美子、小国 俊之、山田 繁雄 各委員

（事務局）企画財政課：斉藤 秀孝、本部 智子、中村 茂樹、江畑 博史

建設課：小林 勉

京都大学大学院：松原 光也

（傍 聴） 2人

## 会議次第

### 1. 開 会

### 2. 会長挨拶

### 3. 議 題

#### （1）各委員からの意見について

##### ①『会議資料②』の補足意見

【主な意見は以下のとおり】

（委員） コミュニティバスと鉄道との運行時間等を調整して、乗り換えをスムーズにするなど、毎日ご利用される方を対象に考えていかないと、なかなか継続的な運行は難しい。

例えば、ICカードなどを使って乗れるようにすると、切符を買わずに乗り換えができるという利点がある。

バスを低床化し、駅のホームのバリアフリー化などを進めて、スムーズに乗り降りでき、利用しやすい形にできれば、コミュニティバスの利用も増えてくると思う。

1時間に2本程度の本数で運行すると、頼られる交通手段になると考える。

（委員） 少子高齢化の状況下に合わせた対症療法型の対応ではなく、まちづくりと交通とを合わせて、持続可能性という視点を持って検討する必要があると考える。

会議は大山崎町の地域公共交通会議であるものの、大山崎町だけでなく、隣接する長岡京市エリアも一緒に考えていくべきである。長岡京市では、新駅やにそと、側道など交通体系が大きく変わるため、長岡京市から大山崎町に渡る公共交通ネットワークも見直しのタイミングにあると考えられる。その際、地域の既存事業者を将来に渡って維持

していくような仕組みが必要と考えている。その上で、既存事業者のみではカバーできず、相当数の方の移動に負担がかかるような地域については、様々な観点から検討し、コミュニティバスありきではなく、デマンド型のバスやタクシー、あるいは介護タクシーなどそれぞれの地域の特性に合わせて交通体系を検討する必要がある。

(委員) 既存路線に影響がないようなルート設定が必要では。

路線バスとコミュニティバスの接続性や運賃体系を同じような仕組みにすることにより、乗り継ぎ運賃ができるとか、路線バスの高齢者用定期券がコミュニティバスでも利用できるなど、利便性が高まるのでは。

(委員) コミュニティバスが走ると、既存の公共交通事業者には悪影響が出る。既存の公共交通事業者への影響が少なく、住民の利便性の向上が図れるような観点から意見している。しかし、町内で事業を行っているものに悪影響が出ることが、果たしてまちづくりの一環なのか。逆に、事業を行っているものを活性化していくこともまちづくりの一環ではないかと思う。

ぜひ、既存の事業者をいきなり壊さないようにということも観点の一つ入れながら議論していければと思う。

(委員) 今後も高齢化率が上がっていくので、町財政が厳しい中ではあるが、コミュニティバス導入については賛成である。しかし、コミュニティバスを走らせることの是非論を論点として協議し、全員が一致した上で会議を進めていけば、今後の課題もスムーズに解決するのではないか。

1回目、2回目の会議の中で、反対などの意見もあったので。

(委員) コミュニティバス運行は、福祉関係にとっては非常にいいことだが、大山崎町の財政が苦しいときに本当に必要なのか、継続できるのか、これをまず考える必要があると思う。

(委員) 私どもは高齢で、タクシーには本当に頻繁にお世話になっている。しかし、費用がかさむので、困っているのが現状である。

移動する手段がないのは本当に一番の大問題で、移動手段のことに関しては皆さん関心を持っている。

(委員) 継続性と経済性の維持ができるかということをしっかり検討していかなければならないと思っている。

(委員) コミュニティバスの代替案として、タクシー利用について検討していく必要があると思う。コミュニティバスだと経費が固定化されるが、タクシーだと財政を見ながら弾力的に運営する方法もあるのでは。要は、財政負担が問題ということを考えている。

(委員) 地域のことから言うと、高齢の方でも、バスがなかったら歩いたらいい、電車にまだ乗れるといったように、頑張り屋さんが多い。

そういう意味で、コミュニティバスということに対して実感がないのが現実である。医院へ通うときも、皆さん、タクシーで行かれたり、また毎日行かれるわけではない。地域の医院でも十分補える。

高齢者のことを考えてくれるのはうれしいが、その高齢者は頑張っていて、それなりに工夫して生活していく努力が見られ、税金があつたら他のことに使ったらいいのではという方もおられるような状態である。

子供連れのお母さん方の移動手段の確保が必要であると思うので、そういった方々の意見をもっと取り上げてほしいという気がする。

(委員) この会議自体が多人数で、消極的や積極的などそれぞれ考え方が違うので、分科会や分散会のような形で運営していったらどうか。

コミュニティバスのルートとしては、下植野、円明寺、鏡田地区でそれぞれ分散会を持って、研究していったらどうか。

(委員) これだけの人数で議論すると、まとめていくのも大変だろうということがあり、ある程度、この会議の中で大きな方向性を決めて、部会みたいなものをつくって議論していけばどうか。

その際、住民が育てるバスというか、住民がこれでいこうというものをつくっていく仕組みをどうやっていけばいいのかということを考えていければと思っている。

ルートの関係で言うと、走らせる前提としたときに、阪急新駅ができ、路線バスのルートの見直しもあると思うし、長岡京市のコミュニティバスとか、そういうルートをどうされるのかということも、今後、調整が出てくるのではないかと考えている。

(委員) コミュニティバスは、まちづくりという観点から必要だと思う。

大山崎町は、小さなまちなので、このまちでいかにコミュニティバスをうまく役に立つよう動かしていくかということ、新しい観点で考えていければと思っている。

円明寺団地に住んでいる方で、団地の坂の上の方から買い物に行くとき、行きは手に何も持たないで降りて来られるのでいいが、買い物されてからは、荷物が重たいので、バスは坂の上を向いて走るほうがいいという住民の声がある。バスの必要性を感じておられる方もいるので、そういう細かいところも検討していければいいと思っている。

それと、委員の人数が多いので、ルート案について部会を設けてはと思う。

(副会長) この会議が初めから、コミュニティバスの試験運行に向けて動き出しているような印象を受けたので、まず、問題意識を共有して、大山崎町の特性をよく理解した上で議論を始めるべきだという認識を持った。

ルートについては、町内にはいろいろな施設側の送迎バスも走っており、そういうものとうまく組み合わせながら検討していくべきではと思う。

## ②その他の委員からの意見

【主な意見は以下のとおり】

- (委員) 財政負担や既存公共交通への影響については、慎重に考えていくべきと思う。一度なくなってしまうインフラの再生は非常に難しいということもあるので。
- (委員) 現在の町の財政下において、幾つかの事業にどんな優先順位をつけて、この公共交通政策に費用投資は一体どれぐらい掛けてもいいのかということを十分に議論する必要があると思う。  
第1回会議配布資料の中に、この会議は、住民の生活に必要な旅客輸送の確保と利便の増進を図るための協議をするとなっているが、大山崎町においては、コミュニティバス導入を検討するためといきなりなっている。その他の方法がこの場で十分検討できていないというのが、この会議の進行上、大きな欠落点だと理解している。  
町内の事業者は商工会の会員が多いので、住民の利便を町内の商工が提供するサービスによって得られるような、そんな繋がりのある構想をつくり上げていていただきたいと考えている。
- (委員) 運行することを前提で動き始めているというのをすごく感じている。  
分科会であったり、地域でこうやっていきたいということを集約するような環境づくりが必要なのではないかと思っている。
- (委員) 既存バスを見直すとか、そういうところで利便性を上げ、活性化できることがあるのでは。  
コミュニティバスも、まち単独では財政負担があるのであれば、長岡京市の病院への需要が多くあるので、長岡京市と連携、連動するという考え方もあるのでは。  
皆さんでコミュニティバスを一生懸命考えて走らせても、住民の方たちに周知しないと全く乗らないということもあるので、税金だけで維持するのではなく、住民の皆さんが利用して、そのバスが維持できるということを町民の方への訴えることも必要になってくると思う。
- (委員) 息の長いコミュニティバスというのは、路線バスが走っていないような地域をカバーし、住民から見やすいルートづくりが必要であり、町民の意見を聞いていく必要がある。
- (委員) 地域公共交通ということなので、そもそも、大山崎町として地域公共交通をどうするのか、どういう形が望まれているのかという、一つの姿が具体的に明示されていないので、議論が拡散していると感じている。  
地域公共交通のあり方を皆さんで共通化するというような形を進めていく必要があると思う。
- (委員) 地域の公共交通が整備されることは交通事故を抑えることにもつながるものだと考えている。

公共交通が整備されていない場合、やはり自動車、バイク、自転車などが移動手段として必要となり、自動車を運転することで交通事故の危険も存在するものと考えている。

(委員) まちの財政が厳しい状況の中、財政収支のバランスを考慮した上で、コミュニティバスを最優先で取り組む事業であるのかどうか、その点をまず議論すればと思う。

本会議のご意見などを参考にし、また、町民の皆さんの声に耳を傾け、本町に適した運行携帯に持っていきたいと思っている。

(委員) なごみの郷のバスの運行の仕方を上手に考えることが重要ではと思う。

既存バス路線については、新駅が開業することにより、運行経路が変わる可能性があるということを盛り込んだ上でないと、この議論は前に進まない。

まずは、運行させる、させないということ以前に、もう少し具体的な事例などの情報を皆さんで共有しながら、議論を進める形をお願いしたいと思う。

## (2) 論点整理について

- ・会長が、これまでの各委員からの意見を整理し、以下の4つの論点に絞った。
- ・以下の論点について、各委員も了承し、次回会議では、『新たな公共交通施策の導入手段と導入地域』について議論していく。

### 【会議での論点】

- ①『新たな公共交通施策の導入手段と導入地域』
- ②『既存の公共交通との関わり』
- ③『新たな公共交通導入に係る運営経費と町財政』
- ④『部会の設置について』

## 4. 閉 会